

# 期待される日本語教師像について

## —外国人留学生の期待と教師の自己点検の課題—

林 伸 一

### 要旨

外国人留学生から期待される日本語教師像を探ることを通して教師教育の課題を検討した。従来は、経験や勘を元に「日本語教師としてふさわしい資質」が提示されてきたが、本稿では縫部（2008）が示した海外での調査結果を照合枠として設定し、日本国内での留学生と日本人を対象とするマインド・マップ調査結果とを照合しながら検討した。その結果を元に、日本語教師に期待されている資質と行動特性を探り、教師教育の課題を考察した。日本語教師にふさわしい性格カテゴリーの中には、縫部（2008）がカウンセリング・マインドとしてまとめている属性が含まれている。

### キーワード

日本語教師像、マインド・マップ調査、カウンセリング・マインド、思いやりのある態度、授業の実践能力

#### 1. はじめに

「日本語教育に関する専門的知識・能力」に関しては、1988年から日本語教育能力検定試験が始まったことにより、ある程度意識的にとらえられるようになってきたと思われる。しかし、日本語教師に期待される「国際的感覚と幅広い教養」「豊かな人間性」「日本語教育に対する自覚と情熱」などは、日本語教育能力検定試験では容易に測りようがないとの判断からか、これまであまり検討されてこなかった。特に「豊かな人間性、自覚と情熱」などに関しては、情意的なファクターであり、客観的にはとらえにくく、扱いにくいという印象が強い。

日本語教育のコース・デザインやカリキュラム・デザインに関しては、学習者のニーズに基づいて策定するという考え方が定着しているが、あるべき日本語教師像に関しては、なかなか学習者のニーズや希望が反映されにくく、これまであまり検討されてこなかっ

た。

小出（1987）も「日本語教師の本当の評価ができるのは学生ではないか」と問題提起しており、「日本語の学生は目的意識が強いから、能力のない教師は自然に排除する」とまで述べている。本稿では、日本国内で学ぶ留学生（以下「留学生」と将来日本語教師を目指す日本人（以下「日本人」）の双方を対象に調査し、「目標としての日本語教師像」をさぐり、日本語教師養成および教師教育としての課題を検討したい。

林（1992）は、教育カウンセリングの立場から次のように述べている。

「日本語教師としてふさわしい資質を考える時に、まず言えることはカウンセリングの分野でカール・R・ロジャーズ（Carl R. Rogers）が主張したすぐれたカウンセラーになるための属性として掲げたものが、基本的には日本語教師にも求められる資質にある程度つながる」。その属性とは、箇条書きで示

すと次の4点である。

- [1] 共感的理解
- [2] 個人に対する尊重  
(「無条件の肯定的配慮」)
- [3] 自己理解(「自国の文化理解」を含む)
- [4] 言語的知識, 教授法に関する知識と理解

第1点目に関しては、日本語教師として学習者に援助的であるためには、学習者に対する共感的理解が必要となる。教育実践の場における日本語教師の態度としては、共感能力(対象者に対する共感的理解ができる能力)を持っていることを前提として、学習者に対して、誠実で受容的な関心を持った態度と学習者の感情を深く理解する態度が求められる。第2点目の「個人に対する尊重」と第3点目の「自己理解」もカウンセリングの基本概念を指している。さらに付け加えるならば、学習者の習得の進捗状況や弱点・問題点などをチェックする「診断的理解」も必要である。ともすると第4点目の「言語的知識, 教授法に関する知識と理解」だけが、日本語教師に求められていると思われがちである。それは、1988年から始まった日本語教育能力検定の試験範囲が、「言語的知識, 教授法に関する知識と理解」に重点が置かれていたためとも考えられる。

また、林(1992)は、指導的立場の日本語教師、日本語教育専門家についても考え、國分康孝氏の指摘するカウンセラーのための三条件をヒントに次の三点を挙げている。

- [1] 実践(class-work) : 日本教育の現場での教育活動が十分にできる
- [2] 教育(teaching) : 日本語教師の養成, 育成, 現職者研修ができる
- [3] 研究(research) : 日本語教育における専門分野をもち、独創的な研究活動ができる

縫部(2008)は、日本語教師像に関して、

アジアとオセアニア地域における初等・中等教育段階の日本語教師455名を対象に、どのような教師が望ましいと思っているのか、教師はどのような専門性や力量を身につけておくべきなのか、行動特性という観点から国際調査を行って、その結果を2008年12月の日本語教育学会中国地区研究集会(会場: 山口大学)において報告している。同調査は、2006年6月~2008年3月に41項目の質問紙法で行われた。

本稿では、縫部(2008)が抽出した「優れた」日本語教師の行動特性を構成する概念を照合枠として用い、マインド・マップ調査から得られた結果を、縫部(2008)の調査結果と比較し、日本語教師に求められる要素を考えたい。

なお、学習者が求める日本語教師の行動特性の構成概念に関しては、中川良雄・縫部義憲他(2006)の平成16年度~平成17年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書『日本語教員養成における実践能力の育成と教育理念に関する調査研究』に詳しく報告されている。本稿では、紙幅の都合上、出身地別の調査結果の差異については言及しない。

## 2. 「優れた」日本語教師の行動特性を構成する概念

縫部(2008)の調査では、SEFA(Stepwise Exploratory Factor Analysis)による探索的因子分析を行ない、4因子が得られている。次の表1は因子分析の結果を表しており、抽出された4因子が示されている。

第1因子の「暖かく」は「温かく」が適切だと思われるので以下表記を改めて検討する。

## 3. 優れた日本語教師の行動特性の検討

縫部(2008)の調査では、第1因子から第4因子までを抽出しているが、本稿ではそれぞれを検討のための照合枠とし、各質問項目

表1 SEFAの結果

質問項目		因子負荷量
第1因子：思いやりのある態度		
Q21	暖かく、やさしく、思いやりがある。(注1)	.82
Q40	学習者の感情を受け入れる。	.56
Q28	大きな忍耐力がある。	.51
Q37	教室を和やかで、くつろいだ雰囲気にする。	.41
第2因子：授業の実践能力		
Q22	学習者に日本語で話すことを促す。	.68
Q23	多様な教授法、教材、視聴覚教具を用いる。	.68
Q19	授業がきちんと構成されている。	.46
第3因子：幅広い知識		
Q27	日本の文化・習慣・歴史について幅広い知識がある。	.82
Q8	世界経済・国際問題について幅広い知識がある。	.40
Q17	言語学の基礎的な知識がある。	.35
第4因子：明るい人間性		
Q05	明るく、ユーモアがある。	.66
Q9	楽しんで教えている。	.43
Q18	学習者をほめたり、励ましたりする。	.34

に項目番号を付して検討する。

#### 第1因子：思いやりのある態度

- 1、温かく、やさしく、思いやりがある。
- 2、学習者の感情を受け入れる。
- 3、大きな忍耐力がある。
- 4、教室を和やかで、くつろいだ雰囲気にする。

第1因子の思いやりのある態度は、「優れた」日本語教師の行動特性の筆頭にあげられるべきもので、異文化接触の最前線にある日本語教師としては必要不可欠の態度であろう。特に、日本にやってきた外国人学習者にとって、日本という異文化の中に身をさらす不安や緊張の中で項目1の「温かく、やさしく、思いやりがある」態度で接してくれる日本語教師の存在は、孤立感や疎外感、違和感

を覚える学習者にとって救いとなり、心のよどころとなるであろう。

留学生の日本社会への適応パターンについても考えておく必要がある。林(1992)の第1項目目に示した「共感的理解」に通じる点である。

項目2の「学習者の感情を受け入れる」は、カウンセリング立場から言えば「他者受容」あるいは「他者理解」に該当する。林(1992)の「共感的理解」の中の「誠実で受容的な関心を持った態度と学習者の感情を深く理解する態度」の前提となる要素である。

項目3の「大きな忍耐力がある」は、トランス(tolerance:寛容性)が高いことを意味する。異なる文化背景のもとで異なる価値観を持った学習者に接する態度として「大きな忍耐力がある」ことが日本語教師に要求される場合がある。例えば、時間の観念や仕事

内容などに大きなズレがある。日本のように時間にも仕事内容にも細かさが重視されるのに対して学習者の時間や仕事のしかたのルーズさが目につく場合に、頭ごなしに叱るのでは、かえって教師の側が信頼性を失うことになりかねない。日本国内にあっては、日本式の時間感覚の厳密さや仕事内容の緻密さを留学生教育や外国人研修生教育の場面で教えていく必要があるが、教師は予め学習者の文化背景について理解しておく必要があるだろう。

項目3の「大きな忍耐力がある」は、林(1992)の第2項目目に示した「個人に対する尊重」あるいは「無条件の肯定的配慮」を前提にしている要素である。

#### 第2因子：授業の実践能力

- 1、学習者に日本語で話すことを促す。
- 2、多様な教授法、教材、視聴覚教具を用いる。
- 3、授業がきちんと構成されている。

第2因子の授業の実践能力に関しては「学習者に日本語で話すことを促す」という項目が語学教師として当然のごとく重視される要素である。大学で一方向的に授業を展開する教師は、学習者に発話する余裕を与えず、時間いっぱい説明することが教師の仕事であると認識しているように見える。

小出(1987)が教師教育の際に「一方向的な講義で、しかも言い放し、聞き放しで十分な成果があがるかどうか」という疑問を提示しているのに通じる項目である。一方向的な講義で教育された教師は、自分が教える場合にも、同じように一方向的な講義をする恐れがある。

項目2の「多様な教授法、教材、視聴覚教具を用いる」に関しても、項目1の「学習者に日本語で話すことを促す」ための方策であることが多い。文法訳読法は別としても、

オーディオ・リンガル・メソッド (Audiolingual Method) コミュニティ・ランゲージ・ラーニング (Community Language Learning) サジェストペディア (Suggestopedia) コミュニカティブ・アプローチ (Communicative Approach) などは、みなできるだけ目標言語で学習者が話すことを促す教授法である。すぐれた語学教師は、どのような学習者には、どのような教材や教具を用いたらよいかを日常的に考えている。

項目3の「授業がきちんと構成されている」は、語学教師に限らず教師一般に求められているところである。あらかじめ教案 (lesson plan) を作成し、授業の目的にあった教材教具を用意するなど事前の準備が期待されている。

第2因子の項目1～3は、林(1992)が、プロの日本語教師あるいは指導的立場の日本語教師とは何か、日本語教育専門家とは何かを考えるとときに、示した三点のうちの第1点目の「実践 (class-work) : 日本語教育の現場での教育活動が十分にできる」に相当する。

#### 第3因子：幅広い知識

- 1、日本の文化・習慣・歴史について幅広い知識がある。
- 2、世界経済・国際問題について幅広い知識がある。
- 3、言語学の基礎的な知識がある。

日本語教育の現場では、単に日本語だけを教えていけばいいのではなく、背景となる日本の文化・習慣・歴史など、いわば日本事情について幅広く扱うこととなる。さらには、学習者は日本や日本語を通して世界経済・国際問題についての知識を得ることを希望しており、日本語教師は単に語学教師以上の幅広い知識を持っていることが期待されている。

## 第4因子：明るい人間性

- 1、明るく、ユーモアがある。
- 2、楽しんで教えている。
- 3、学習者をほめたり、励ましたりする。

教育カウンセラーとしては、「明るく、朗らかで、活動的」であることが望ましいとされている点に関係している。日本語教師に限らず広く教育関係者の望ましい性質と行動特性を表しているといえるであろう。

## 4. 「いい日本語教師」マインド・マップ調査

本稿独自の調査としては、図1のようなマインド・マップ (mind map) を用いたアンケート調査を行った。マインド・マップとは、1970年代初めにトニー・ブザン (Tony Buzan) らの提唱した記述法で、「心の意味地図」である。具体的には、一枚の紙の中心にテーマを書き、それに関連するさまざまなアイデアやイメージを放射状に次々と書いていく。

マインド・マップは、提唱者の提案では、ノートテーキングや企画案づくりなどに活用されてきたが、佐々木 (2008) 陳 (2009) 許 (2009) らは、語や概念のイメージ、意味範囲などを調査する方法として用いている。

本調査は、「いい日本語教師とは？」を中心テーマにして、その周りに放射状の線を描き入れておき、線の先に思いつく言葉や表現を書き入れる形で2009年5月-6月に実施した。

山口大学および名古屋大学の留学生 (10-30代) 52名と山口大学で専門科目として日本語を履修している大学生 (10-20代) 100名および日本語ボランティア養成講座参加者の社会人 (30-70代) 25名からの回答を得ることができ、以下にその結果を示し、分析、検討を加えた。特に、外国人留学生が求める日本語教師像と日本語教師を目指す日本人が望ましいと考える日本語教師像の差異に着目し

## アンケート調査

あなたにとって「いい日本語教師」とはどんな教師でしょうか？思いつく言葉やイメージ、表現などを次のマインド・マップに書き入れてみてください。



何かご意見があればご記入下さい。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

◎国籍 ( ) 出身地 ( ) 都道府県 ◎性別 (男・女)  
◎年齢 (10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代~)  
ご協力ありがとうございました。

図1 アンケート調査用紙

て検討した。

## 4-1. マインド・マップ調査対象者

(A) 留学生 (10-30代) 回答者の内訳：  
男性 16人・女性 36人 総計：52人

出身地の内訳 (単位：人)：中国31 タイ6 韓国5 英国1 フランス1 モンゴル1 ポーランド1 カンボジア1 アメリカ1 オーストラリア1 ブラジル1

(B) 日本人 (10代-70代) 回答者の内訳：  
男性 19人・女性 106人 総計：125人  
(大学生100人：10代-20代，社会人25人：30代-70代)

留学生の出身地の内訳で、中国の学習者が59.6%を占めているのは、バランスを欠くと言えるかもしれないが、2008年の国内の日本語学習者の中でも中国の出身者が56.5%を占めている (文化庁、2008「日本語教育実態調査」参照) という現実をそのまま反映していると思われる。本稿では、出身地別の相違については検討項目から外した。

また、日本人の回答者の内訳として、男女比が約1:5になっている点もデータとして

バランスを欠くと言えるかもしれないが、日本国内の日本語教育の現場の男女比の実態は、約1:4であると言われ、日本語教師になるための日本語教育能力検定試験の受験者の男女比もここ何年か約1:4を維持している。なお、統計に表れていないボランティア日本語教師などを含めると約1:5くらいになるのではないかとの見方もある。つまり、本稿での回答者の男女比は、日本国内の日本語教育関係者の男女比をほぼ反映していると考えられる。

#### 4-2. 分析方法

次に示す表2~5に関しては、以下の

(1)~(4)の方法と手順に従って整理した。

- (1) 【 】内は出現度数，【 】のないものは出現度数1を表わす。「計」はコードごとの出現度数の小計，「比率」は総人数に対する小計数の百分率(%)を表わす。なお、紙幅の関係から、「具体的な回答内容」の中の省略部分は「…」で示す。省略部分もできるだけ表下の解説・分析の部分で内容を示すようにした。
- (2) また、回答は自由記述のため、「優し

い【23】親切【13】配慮」などの語群は「優しい」とコード化した。類義語または関連表現の語群のうちの出現度数の多いものをコードとした例が多いが、必ずしも出現した語群の中からコード名を選定したわけではなく、「会話能力を向上してくれる先生・会話力・学習者に日本語で多く話させる・実践を重視し、学生に会話させる・よくコミュニケーションを促す」などの語群には「対話重視」というコードを用いた場合もある。留学生と日本人の回答を比較しやすくするために、コードを一致させた場合もある。

- (3) 次に示す表の中で具体的な回答内容に関しては、留学生の回答を優先的に掲載し、スペースの余裕がある場合にのみ、日本人の回答も( )に入れて掲載した。
- (4) カテゴリーに分類できないものは、表4「その他」に入れ、その中での下位区分を試みた。



## 4-3. 分析結果

表2：性格カテゴリー

区分	コード	留学生の具体的な回答内容、( )内は日本人	留学生 52		日本人 125	
			計	比率	計	比率
性格 【留学生 130】 (日本人 283)	優しい	優しい【23】親切【13】思いやり【6】配慮(優しい【29】 …面倒見がよい・怒らない)	40	76.9	66	52.8
	面白い	面白い【14】ユーモアがある【13】(ジュークを言う【2】)	27	51.9	37	29.6
	明るい	明るい【8】・笑顔【3】・愛想がいい	12	23.1	42	33.6
	厳しい	厳しい【10】・学術研究上厳しい(日本語に厳しい)	11	21.2	11	8.8
	忍耐力	忍耐力がある教師【3】根気がいい【3】我慢できる 学生に対して辛抱強い【2】	9	17.3	15	12.0
	熱心	熱心な人【2】好奇心旺盛である【2】情熱・元気…	7	13.5	30	24.0
	誠実	まじめ【3】責任感【3】	6	11.5	9	7.2
	寛容	他人の意見と見解を虚心に聞ける・尊大でもったいぶった態 度を持っていない・柔軟	3	5.8	14	11.2
	その他	親しみやすい【2】性格がいい・恥ずかしくない・かわいい・ 頼る・フィードバックをする・ひどく殴らない先生・平静	15	28.8	59	49.7
	素質【留学 生 35】 (日本人 96)	賢い	賢い【8】鋭い【5】(臨機応変【4】感覚が鋭い・質問を早く 受け入れる・学習者の誤りの原因が分かる)	13	25.0	16
視野		視野が広い【3】日本へ行ったことがある【2】経験が豊か	6	11.5	26	20.8
能力		想像力がある【2】・集中・弁舌	4	7.7	23	18.4
品行		自己犠牲・時間を守る・生徒のいい見本となる先生	4	7.7	15	12.0
その他		人気【3】・正しい価値観を持つ【3】独特な見解【2】	8	15.3	16	12.8
相互理解 【留学生 12】(日 本人 83)	相互理 解	学生と友達になれる【3】コミュニケーション能力がある 【3】・社交性	7	13.5	36	28.8
	異文化 受容	外国の文化を理解する【3】・グローバルマインドがある先 生・中国文化も分かる	5	9.6	47	37.6

表2に示した「優しい」のコードは、留学生と日本人に共通して首位であり、留学生が76.9%で、日本人が52.8%と24.1ポイントの差異がある。

「厳しい」に関しても留学生の方が日本人より12.4ポイント高い。

その他に「ひどく殴らない先生」という韓国の留学生の回答が含まれている。韓国の教育現場では軽い体罰は許容されているとのことであり、ひどく殴りさえしなければ「厳し

い」教師が求められているとも言える例であろう。

「面白い」のコードでは、留学生が日本人より、22.3ポイント高い。

「明るい」のコードでは、留学生より、日本人の方が10.5ポイント高い。日本人の「熱心」というコードが留学生以上に重きが置かれ、「積極的」というコードが留学生にはないが、日本人には14.4%出現したのが特徴的である。

表3：授業カテゴリー

区分	コード	留学生の具体的な回答内容、( )内は日本人	留学生 52		日本人 125	
			計	比率	計	比率
授業の実 践能力【留 学生 105】 (日本人 308)	分かり やすい	分かりやすい【20】説明が上手い【9】明瞭【2】例文【2】 (説明が上手い【22】教え方が丁寧【8】言葉遣いが上手【10】)	33	63.5	98	78.4
	発音	発音がいい【11】話し方が明瞭【2】大きい声・日本語の標準語で授 業をする	15	28.8	50	40.0
	教授法	教授法がいい【3】教え方が多様【4】めりはり【3】学生の日本語実 力を向上させる【2】実践(現場体験)・教材を生かせる	14	26.9	46	36.8
	雰囲気 作り	雰囲気がいい【8】・楽しい授業【2】・盛りあげられる人・学生が気軽 に回答できるようにさせる・時々冗談を言う	14	26.9	30	24.0
	動機付 け	学習者を励ます【4】面白い授業が作られる【4】眠くない授業ができ る【2】・毎回学生が欠席しないように努力する先生・勉強に興味を 持つようにできる…	12	23.1	31	24.8
	非言語	ジェスチャー【2】豊富な表情【2】・筆記・動き回る	6	11.5	19	15.2
	対話重 視	会話能力を向上してくれる先生・会話力・学習者に日本語で多く話さ せる・実践を重視し、学生に会話させる・よくコミュニケーションを 促す	5	9.6	18	14.4
	その他	授業の時間よく守る・宿題が少ない・授業がおそくない	6	11.5	16	12.8
学習者援 助【留学生 38】 (日本人 54)	学習者 理解	学生の気持ちを理解する【16】・学生に気を配る【4】・相談できる先 生【3】・学生を尊重する【2】・学習者の理解度によって授業を進める 【2】…	34	65.4	51	40.8
	その他	日本人の友達或はベンフレンドを紹介してくれる・授業以外の交流イ ベントを紹介したり、主催してくれる	4	7.7	3	2.4
授業態度 【留学生 21】 (日本人 77)	丁寧	授業準備が十分【4】熱心な仕事ぶり【4】宿題をちゃんとチェックす る・優しく説明してくださる・丁寧…	12	23.1	37	29.6
	平等	平等【3】・偏見がない・差別しない	5	9.6	19	15.2
	字	字がきれい【2】(字がうまい【5】)板書が読みやすい【2】)	2	3.8	18	14.4
	その他	生徒を生徒だけに扱わない先生・試験だけで学生を評価しない先生	2	3.8	3	2.4
授業内容 【留学生 24】 (日本人 44)	多様な 内容	授業内容が豊富【4】教科書以外のこと【4】役立つこと【3】日本文 化も教える【3】言語も教えてくれる【2】・新聞のニュースの読み方 とかも教えてくれる…	20	38.0	40	32.0
	その他	新しい言葉・授業の内容をきちんと制定し、まもる・スケジュールど おりに教える・テーマがよい	4	7.7	4	3.2

表3の授業の実践能力では、「分かりやすい」が留学生と日本人ともに首位をしめているが、留学生より日本人が14.9ポイント高い。「発音」コードに関しても留学生より日本人が11.2ポイント高い。教授法に関しても、留学生より日本人が9.9ポイント高い。

いずれも留学生に比べ、日本人の方が、授業の実践能力に重点を置いていると言える。

「学習者援助」の中の「学習者理解」に関しては、留学生が日本人より24.6ポイント高い。留学生の「学習者理解」には「外国人の日本語の苦手のところを掌握している・学

表 4 : 知識カテゴリー

区分	コード	留学生の具体的な回答内容、( )内は日本人	留学生 52		日本人 125	
			計	比率	計	比率
知識 【留学生 55】 (日本人 249)	幅広い知識	幅広い知識がある【7】言語学の知識【3】専門知識【2】教育学の知識【2】世界的知識を持っている・外国人日本語を勉強する時よく出ている問題よく知っている・分野内の知識だけでなく、他方面の知識も分かる(常識的【3])	17	32.7	37	29.6
	日本文化・日本事情	日本文化に詳しい【8】・日本に対する知識が広い・日本社会事情・若者が関心をもっている話題、ものなどに詳しい・日本語の歌ができる	13	25.0	61	48.8
	日本語の知識	日本語が上手【5】文法の知識【3】日本語が好き【2】現代語(日本語の知識が豊富【57】日本語への理解【36】実用的な日本語【4】日本語の面白さ・日本語の特徴・発音の練習・「は」と「が」の違い)	11	21.2	102	81.6
	外国語	他の言語も分かる【4】英語ができる【2】日本語と英語を比べることができる(外国語ができる【25】英語が話せる【4】・外国語の知識)	7	13.5	30	24.0
	求知心	勉強熱心【6】学問の研究(勉強熱心【13】努力家【3】・教育について熱心・本をよく読む・何でも興味を持って聞いたり、話したりできる人)	7	13.5	19	15.2

習、授業のことだけではなく、生活やほかの方面にも手伝ってもらえる・学生を放棄しない先生・学生の実力が分かる・学習者を認める・困った時助ける」などの内容も含まれている。

同じ授業カテゴリーの中でも、授業の実践能力に関しては日本人が重視しているのに対して、留学生は学習者理解を重視していると言える。特に「学生を放棄しない」などは、学業不振の学習者を見放さない、置いてきぼりの授業をしないことを意味する。また、学習援助者としての役割だけでなく生活援助者としても「困ったとき助ける」教師の役割が期待されていることを意味する。これは林(1992)の「共感的理解」「個人に対する尊重」および縫部(2008)の「思いやりのある態度」(第1因子)に通じる。

授業態度の「丁寧」に関しても、留学生と日本人で比率の上での差異はないが、「字

に関しては、留学生より日本人が10.6ポイント高い。板書の文字がきれいで、上手であることに越したことはないが、「達筆」であることが求められているわけではない。

授業態度のその他に「生徒を生徒だけに扱わない」とあるが、それはいつも「教師」と「生徒」という固定的な身分格差を前提に対応するのではなく、学生を個人として尊重することの大切さを示していると思われる。「試験だけで学生を評価しない」というのも、トータルに学生を見て、さまざまな観点から評価することが望ましいとの声と言える。

授業内容の区分の中の留学生の「多様な内容」には「言語の説明だけでなく考え方も説明できる・聴解、読解と文法はつきり教えてくれる」などの内容が含まれている。

表4に示した「知識カテゴリー」の中では、「幅広い知識」コードが留学生では首位

表5：その他カテゴリー

区分	コード	上段は留学生の回答内容、下段は日本人の回答内容	計	比率
その他 【留学生11】	内面・属性	自分の気持ちをコントロールでき、気分転換できる・自分の気持ちがしっかりしている・日本の料理ができる・男でもいいし女でもいい・しゃべる人	11	21.2
	外見	ファッションにセンスがいい・すっきりしたみなり・格好いい・美しい・きれい・できるだけ若い人がいいと思うけど、経験面から見るとそうはいかない		
その他 (日本人28)	人間関係	人と関わることが好きである【5】・卒業しても覚えている・印象に残る	28	22.4
	属性	多趣味【2】・人柄がよい【2】・日本語教師の資格を持っている・実績がある・辞書に頼らない・平和を好む人・健康な人・辛い		
	行動特性	いい成績をくれる・単位をくれる・おかしな表現はおかしいと言う・授業には必ず辞書を持ってくる人・危険と隣合わせを生きぬく・厳しい世界を生きぬく・国語辞典持ち歩いている・外国旅行が好き・究極の難題		
	話題	自分のおかしい話(雑談)もある・他文化同士なのに、生徒と冗談が通じる		

で32.7%を占めているが、日本人の方では、「日本語の知識」コードが首位で、81.6%となっている。回答者の留学生は、人文学部、経済学部、教育学部、理学部などの分野を異にする学生が含まれており、日本語を情報収集の手段として活用し、世界情勢など幅広い知識を獲得したいと思っている。それに対して、日本人の側は、あくまで日本語の知識そのものを教えることに重きを置いているようである。かつて日本もオランダ語や英語を通して、欧米の科学技術を取り入れ、文明開化しようとしたが、オランダ語や英語の研究に没頭したわけではなかったのと似ている状況にある。日本語教師も「世界の状況をよく知っている」ことが望ましい。「幅広い知識」コードの日本人の回答には「知識が豊富

【26】言語の知識が豊富【3】専門知識【3】」などが含まれていた。

「日本文化・日本事情」コードにおいても、留学生より、日本人の方が23.8ポイント高い。日本人の方が「日本文化・日本事情」を重視している姿勢が表われている。ただし、留学生の方は表2の異文化受容コードの中にあるように「グローバルマインドのある先生」を求めている。やはり、日本語教員検定制度に関する調査研究会の中間報告(1987)にあった「国際的感覚と幅広い教養」が求められていると言える。

### 5. まとめと考察

縫部(2008)の海外の日本語教師を対象とした調査による「優れた」日本語教師の行動



特性は、(1) 学習者の情意面に配慮できること、(2) 多様な方法で教えられること、(3) 日本の文化等についての知識があること、(4) 明るいパーソナリティを備えていること、に分けられた。縫部(2008)は、教師の専門性に関して、(2)と(3)が目標達成機能に相当し、(1)と(4)が集団維持機能に当たり、後者は「カウンセリング・マインド」とも呼ばれているとしている。本稿のマインド・マップ調査においても(1)と(4)が表1の性格カテゴリーに分類され、(2)が表2の授業カテゴリーに(3)が表3の知識カテゴリーに分類され、本調査の調査においても縫部(2008)の調査結果と共通する特性が得られた。

「明るい」「面白い」のコードは縫部(2008)の第4因子の「明るい人間性」に相当する。留学生の方にはなかったが、日本人の方に「穏やか【2】・落ちついている・精神的に安定している」が出現したが、これは回答者の年齢が関係していると思われる。

日本語教師としての行動特性に関しては、一方の側からの思い込みや固定観念、あるいは価値観の相違もあることを十分考慮しなければならないと思われる。

縫部(2008)の調査結果および本稿のマイ

ンド・マップ調査結果から、日本語教師としては、幅広い専門性と情意面での豊かさを身につけなければならないことが分かった。

縫部(2008)の調査の元となった質問紙は、1970年代初めの米国の学校教育現場の生徒と教師を対象に行なわれた自由記述の調査をもとに作成されたとのことである。その調査は本稿の調査と同様に「いい教師とは」という設問のもとに自由記述で行なわれたものであった。教師教育のありようが大きく変わってきている中で、変わらない側面もあることがわかった。教師教育が細分化されることによるメリットもあるだろうが、基本的に重視すべき普遍的な点もあるように思われる。特に語学教師には、カウンセリング的な要素が広く求められていると言えるであろう。

授業での対話場面でもカウンセリングの要素を含んでいることがある。人間の性格に関する特徴は、必ずしも学習者のニーズにより変えられるものではないが、カウンセリングの方法は教師教育の中で身につけられる。その点、今後の課題として考えていきたい。

(人文学部 教授)



(注1) 第1因子の「暖く」は「温かく」が適切だと思われるので以下表記を改めて検討した。

---

**【参考文献】**

- 許恵玉 (2009) 「『日本文化』と『中国文化のイメージ比較研究』山口大学人文学部国語国文学会『山口国文』第32号, 136-150
- 小出詞子 (1987) 「『日本語教師養成』遍歴」日本語教育学会『日本語教育』63号, 42-51
- 佐々木翔太郎 (2008) 「日本と中国における『鬼』のイメージの差異について」『平成20年度日本語教育学会・第10回地区研究集会予稿集』14-23
- 陳仲鵬 (2009) 「日本語と中国語の同形語<先生>について」山口大学人文学部国語国文学会

『山口国文』第32号, 152-166

中川良雄・縫部義憲他 (2006) 平成16年度～平成17年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究成果報告書『日本語教員養成における実践能力の育成と教育理念に関する調査研究』

縫部義憲 (2008) 「海外の日本語教師はどのような専門性を備えていると考えているか—アジアとオセアニア地域を対象に—」『平成20年度日本語教育学会・第10回地区研究集会予稿集』105-110

林伸一 (1992) 「日本語教師」岡崎敏雄ほか編『ケーススタディ日本語教育』桜楓社

**【謝辞】**

本稿のための言語調査にご協力いただいた方々に、この場を借りて感謝の意を伝えたい。謹んで心よりお礼を申し上げる。